

高齢者交通安全推進委員委嘱

地域の交通事故防止に努めます！

1月11日（金）町役場会議室で、町老人クラブ交通安全推進委員委嘱式が行われました。

これは、高齢者の事故防止と交通安全の意識高揚を図ることを目的として、宮之城警察署が実施しているもので、町内から、各地区老人クラブの代表12人の高齢者が委嘱されました。

式では、委員一人一人に委嘱状と帽子が手渡され、宮之城警察署長から「高齢者への指導の助けをしていただき、事故がなくなるよう協力してください。」とあいさつがありました。また、町老人クラブ連合会会長の高嶺健雄さんが「交通ルールとマナーを守り、老人クラブ会員が先頭に立って地域の交通事故防止に努めます。」と誓いの言葉を述べました。



宮之城警察署長から委嘱状と帽子を受け取る高齢者

鶴田ワイルドボアーズスポーツ少年団

プロ野球選手に教えてもらったよ！

12月22日（土）宮之城町でプロ野球選手による野球教室が行われ、本町からも鶴田ワイルドボアーズスポーツ少年団が参加しました。指導にあたったのは、ヤクルトスワローズの入来智投手で、ボールの取り方や投げ方を指導されました。その後、バッティング練習のときには、実際に入来投手が投げて子供たちが打つという方法で行いました。最後には、プロの球を子供たちに披露し、球の速さに子供たちも驚いているようでした。バッティングの時にキャッチャーでボールを受けた奥村斗くんは「プロの球を受けることができうれしかった。」と大変喜んでいました。



入来投手に指導を受けるワイルドボアーズのピッチャー梅木田匠吾くん

柏原の宮之脇留治さん

巨大イチゴ！ 177g！



大きなイチゴを手にする宮之脇さん

柏原のイチゴ農家、宮之脇留治さんのビニールハウスで重さが177gもあるいちごが収穫されました。イチゴの種類は「とよのか」で、通常家庭で食するイチゴは30～50gのものだそうです。このイチゴは、花の数が多いことにより、茎が2本以上つながったまま実をつけるためにできるもので、集合果（鶏頭果）と呼ばれるそうです。留治さんは「大きくても120gほどのものはたまにあるが、23年間イチゴを栽培してきたがこんなに大きいのは初めて」と大変驚いていました。

町剣道連盟が元旦に初稽古

寒さなんか気合で吹っ飛ばせ！



ぶつかり稽古を繰り返す参加者

鶴田町剣道連盟（会長田野公一氏）では、1月1日武道館で剣道初稽古を行いました。連盟では新年を新しい気持ちで迎えようと毎年実施しています。以前は年末から元旦にかけて行う越年稽古を行っていましたが、このような新春初稽古に変えて今年で4年目になります。今年は、小学1年生の豆剣士から79歳までのベテラン剣士まで総勢50名近くが集合しにぎやかな稽古となりました。

午前8時から始まる稽古では、寒そうに身を縮めていた子どもたちも、大人へのぶつかり稽古を繰り返すうち体も温まり、館内には大声が響いていました。約1時間の練習後には、剣道スポーツ少年団育成会で作ったお雑煮を食べ、今年1年の活躍を誓っていました。

柏原の室屋博和さん

雛鑑別士の指導のためスペインへ！

柏原の室屋博和さんが1月18日から3ヶ月間、高等雛鑑別士の指導のためスペインへ出発しました。

これは、初生雛鑑別協会にスペインの原種鶏農場から要請があり、全日本初生雛雌雄鑑別選手権で8回の優勝経験をもつ室屋さんが選ばれました。これまで、雛鑑別士の資格取得の指導のための派遣は各国で実施されていますが、高等鑑別士の資格を持つ人の指導をするのは全国でも初めてです。室屋さんは「プロイラーや採卵鶏の原種になる鶏は判別も難しく、農場の収益にも大きな影響があります。責任は重大ですが、熟練の技術を広めて行きたい」と抱負を話されました。スペインでの活躍が期待されます。



ヒナを入れる鑑別箱の前で鑑別の仕方を話す室屋さん

柏原の小山義人さん

ステビアを使ったキンカン栽培



開発中のジャムを手にする小山さん㊦と有村指導員㊦

柏原の小山義人さんがステビアを使ったハウスキンカンの栽培に取り組んでいます。

ステビアは、南米原産の天然甘味料で、葉面散布や置き肥として使用すると、味がよくなることから、イチゴや他のカンキツ類に使用されています。2年前に農協の有村隆志営農指導員からキンカンにも使用できないかと相談があり、試験的に栽培したところ、味もよく、東京の市場でも好評価を得ています。現在は、キズ物を利用したキンカンジャムも開発中で、特産品として売りだしていきたいと話されました。